

高齢者を中心に便失禁の症状がある人は推計約50万人。意に反して便が漏れ、社会生活の支障になる人も多い。これまでは薬などでの治療が中心だったが、4月に電気刺激を使った装置に公的医療保険が適用され、治療の選択肢が広がった。

便の漏れ 電気刺激で改善

4月から医療保険適用

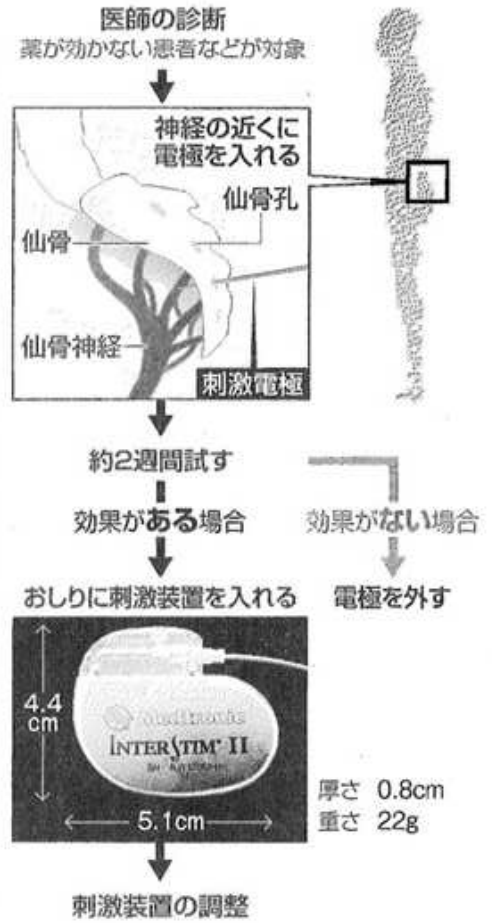
千葉県に住む70代の女性はこの十数年間、便が漏れる症状に悩まされてきた。3年前、便失禁を改善する装置を体内に入れた。今のところ、以前に比べて便漏れの回数は半分程度に減っている。パッドなどの用意は必要だが、買い物など日常的な外出はできる。「手術を受けてよかった。改善したという実感です。これが毎日の生活を生きる活力になればと願っています」

この治療法は「仙骨神経刺激療法」。骨盤の一部にある仙骨の近くで、排泄をつかさどる仙骨神経に電気刺激を与えることで、排便機能の改善をめざす。効果が出る仕組みはよくわかっていない。

対象は、薬が効かないなど内科的な治療がうまくいかない患者だ。症状改善が目的で、すべての患者が完治するわけではない。

東京山手メデイカルセンター（東京都新宿区）の山名哲郎・大腸・肛門科部長

便失禁の新しい治療法の流れ



「6割ほどの患者は薬などを使うことで改善できる。それ以外の人にとって、治療の選択肢が増える」と語る。

冒頭の女性は、この装置が医療機器として承認を得るための治験（臨床試験）に加わった。参加した21人のうち18人（86%）が治療を開始して半年で、1週間あたりの便失禁の回数が治療前の半分以下に減ったという。米国の研究では、治療開始後3年で87%の人が便失禁の回数が半分以下になり、長期的な効果も確かめられている。

治療を始めるには、まず入院して刺激電極を体内に入れる。背中から仙骨神経の付近に向けて針金状の刺激電極を差し込む。電極を体外型の刺激装置に接続し

て、試験的に約2週間、便失禁の改善効果を調べる。効果がなければ電極を取り出して治療を中止する。効果があれば長期的に使うために小型の刺激装置をおしりの上部に埋め込んで電極につなげる。電気刺激の強さは体外からリモコンで調節できる。

治験での副作用は、埋め込んだ場所での感染を起こしたケースがあったが、抗生剤で治療できたという。

治療を始めるには、まず入院して刺激電極を体内に入れる。背中から仙骨神経の付近に向けて針金状の刺激電極を差し込む。電極を体外型の刺激装置に接続し

生活習慣見つめ直す

刺激装置は心臓ペースメーカーに似た形で電池を内蔵。電池の寿命は一般的には3〜5年。病院で装置全体を交換する必要がある。4月から公的医療保険が使えるようになった。価格は装置だけで約100万円

で、さらに手術代や入院費などがかる。高額療養費制度を使えば、自己負担額は、70歳未満の中間的な所得の人で10万円程度になる。

便失禁は、自らの意思に反して肛門から便が漏れる症状。これで気分が落ち込んだり、外出を控えたりする人は少なくない。この症状に苦しむ人は、65歳以上

出性便失禁、両方の症状がある混合性便失禁がある。肛門部には括約筋が取り巻くようになり、むやみには便が出ないように締まっている。便失禁の原因としては、出産やけがによる括約筋の損傷▽直腸がんなどの手術を受けた▽神経の病気などがあるが、はっきりしない場合も多い。病院では原因を探るために検査をする。肛門超音波検査で括約筋の損傷の有無や程度がわかる。

治療には、まず生活習慣の改善がある。食物繊維の多い食品をとり、アルコールやコーヒーを控える。薬物治療では、便の固さを調整する薬や、下痢止め薬が使われる。外科的な治療として、傷ついた肛門の筋肉を縫い合わせる手術がある。相談先には、病院では肛門科や大腸肛門外科などがある。

指原病院（さいたま市）の味村俊樹・排便機能センター長は「便失禁は適切な治療をすれば、約70%が症状が改善するか治る。ひとりで悩まないで医師に相談してください」と呼びかけている。